

— HALCC 令和7年度の活動 —

高大連携事業・HALCC 活動成果報告会

報告の様子は「道東テレビ」の
YouTube チャンネルで配信しています。




「楽しく健康新幹線と町内清掃」をテーマに、まちづくりの提案に1年間取り組んできた荒川くるみさん（津別高校2年生）。ボランティアサークル「ひまわり」に所属し、日頃から地域活動に関わる中で、町内清掃と健康づくりを結び付けた取り組みができないかと考えるようになりました。

現在、町内では春から夏にかけて清掃活動が行われていますが、秋には実施されていないことに荒川さんは着目しまし

がる運動を兼ねた清掃活動として、幅広い世代が気軽に参加できる形を目指しました。さらに、落ち葉をただ集めるだけではなく、各地域ごとに落ち葉を使った「落ち葉アート」を制作し、フォトスポットとして活用するアイデアも提案。観光名所ではない場所にあえて設置することで、町民だけが知る穴場スポットのような楽しみ方ができるのではと考えました。

高校生が思い描く津別町の未来



津別高校独自のカリキュラムである「つべつ学」。2年生が受けている「つべつ学Ⅱ」では、北海道大学の課外活動団体 HALCC の力を借りながら「理想の津別町」をテーマに1年間探究してきた。12月13日には、津別高校 体育館で活動成果報告会が行われ、18名の生徒が町長や町民へ向けて自分たちの提言を発表。さまざまなアイデアが出され、まちの活性化へつながるヒントで溢れていた。



▲活動成果報告会で高校生が
自分のアイデアを町長や町民
へ向けて発表した



成果報告会では、HALCCから今年度実施した高大連携事業について、年間カリキュラムやこれまでの取り組みの成果が報告されました。また、HALCCによる町に向けた独自の政策提言も行われ、学生ならではの視点から、町の将来を見据えた考えが示されました。さらに、現在進行するまちなか再生事業にあわせ、施設看板や道案内看板の刷新を見据えた町内看板デザインの最終成果報告が行われました。報告では、1年間を通して高校生や町民と実施してきたワーキンググループの成果として、完成した最終デザインが発表されました。このほか、北大祭でのクマヤキ販売について、昨年を300個以上も上回る販売数となつたことが報告されるとともに、HALCC独自の地域情報誌製作に向けたクラウドファンディング事業の進捗についても紹介されました。

テーマに、まちの活性化について1年間取り組んできた中島瑛太さん（津別高校2年生）。北見市出身で、バドミントン部に所属し、これまでスポーツに親しんできました。現在、津別高校2年生は18人と少人数で、そのうち北見から通学している生徒は8人、美幌から通う生徒も1人います。中島さんが着目したのは、スポーツをきっかけに町外から人

す。津別町には新しくなったトレーニングセンター や豊かな自然があり、これらを生かしてイベントを増やすことで交流人口の増加につながると考えました。具体的には、トレーニングセンターを活用した球技大会や、津別中学校を会場とした町民運動会の開催を提案。大人と子どもが一緒に参加することで、多世代交流や自然なコミュニケーションが生まれることを期待しています。また、チミケツプ

木材を使用したパドルを活用し、キャンプと組み合わせた滞在型イベントとして町の魅力を発信したいと話します。さらに、空き家を活用したサバイバルゲームの開催も提案しました。また、つべつ学については「人間数は少ないけれど、津別高校に通う中で新しい発見があつて楽しい」と笑顔で話してくれまし